



(1) グローバル教養副専攻

「専門性に立ち世界に通用する教養人の育成」を目標とし、所属する学部学科や専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を一つのテーマに沿って修得することで、多面的に物事を捉えて持続的に考える力を養成する全学対象のプログラム。「Arts & Science Course」「Language & Culture Course」「Discipline Course」の3つのコースから1コースを選択し、指定された科目群を体系的に学ぶほか、大学が認定する海外体験を行うことが修了要件となる。修了すると、卒業時に大学から修了証が発行される。

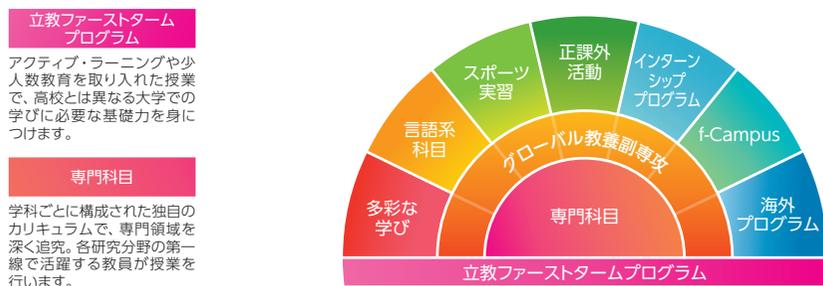
(2) グローバル・リーダーシップ・プログラム (立教GLP)

グローバル化・複雑化する社会の中で求められる、新しいタイプのリーダーシップを育成するプログラム。カリスマ的な先導力だけではなく、異なる思考方法や価値観を持つ人々が良好な関係を構築し、スキルを發揮するために貢献できる力を育むことを目的とする。参加型の授業が中心で、少人数グループで討議や課題に取り組む。日本語で開講される科目から英語による科目へと移行し、積み上げ式で学修。留学生や海外出身の日本人学生とチームを組む機会も設けている。

(3) 立教サービスマーケティング (RSL)

体験学習を通じて社会の担い手としてのシナジーを磨く全学共通プログラム。「世界・社会・隣人」と実際に交わりながら、社会の現場も「教室」として捉える科目から英語スタイルの科目群となっている。授業では、事前学習を経て、一定の期間にわたってNPOや行政機関、企業などの受入機関・団体の支援・指導のもと、社会で生起するさまざまな課題を題材とした体験学習を行う。

授業とさまざまな活動を通じ、着実に成長できる学びの体系



グローバル教養副専攻 学部の専門性に加え、グローバルかつ多面的に物事を考える力を身につけるための学部横断型の教育プログラムです。	多彩な学び 立教大学のリベラルアーツ教育の主軸となる科目。多様なテーマと向き合い、分野を越えた幅広い知識と教養を養います。	言語系科目 英語と初習言語を必修とし、さまざまな人と交流できる言語運用能力の習得を目指すとともに、異文化理解を深めます。	スポーツ実習 実技や講義で心身の成長を促します。講義ではスポーツがもつ文化的側面や、健康維持に関する知識も学びます。
正課外活動 サークルやボランティアといった課外活動をはじめ、海外体験、キャリア支援プログラムなどをおおて広い視野を育みます。	インターンシッププログラム 企業や官公庁などで就業体験を行います。実習をとおして自ら気づき、考える力が養われ、キャリア形成に役立ちます。	f-Campus 協定を結んだ他大学のキャンパスで、多様な科目を履修できます。修得した単位を卒業要件単位に組み入れることも可能です。	海外プログラム 大学間または学部間協定による派遣留学や、短期語学研修など、目的・期間に応じた多様なプログラムで見識を広げます。

は経営学部の「リーダーシッププログラム」がベースとなり、全学向けに展開されたプログラム。企業や団体から提示された課題について、論理的かつ実践的な解決策の策定に挑みます。個別事例における課題解決能力を磨きながら、グループワークでのリーダー経験や、下級生のサポートなどを通してリーダーシップを養います。

「立教サービスマーケティング (RSL)」は、真理を探究する学びの成果を社会貢献につなげる社会連携型教育の一つ。「PRO DEO ET PATRIA」を直接的に体现するプログラムといえます。国内型と国際型があり、国内型では新潟県南魚沼市の豪雪地帯にある村や岩手県陸前高田市、国際型ではフィリピン北部の都市・ケソンの貧困地域などをフィールドとして、コミュニケーション活動に挑戦します。現地の方々と語り合いを通じて気づきを得ながら、実践的な社会貢献に向けて多面的・複眼的に知見を深めていきます。

この立教GLPやRSLは、企業

「立教サービスマーケティング (RSL)」は、真理を探究する学びの成果を社会貢献につなげる社会連携型教育の一つ。「PRO DEO ET PATRIA」を直接的に体现するプログラムといえます。国内型と国際型があり、国内型では新潟県南魚沼市の豪雪地帯にある村や岩手県陸前高田市、国際型ではフィリピン北部の都市・ケソンの貧困地域などをフィールドとして、コミュニケーション活動に挑戦します。現地の方々と語り合いを通じて気づきを得ながら、実践的な社会貢献に向けて多面的・複眼的に知見を深めていきます。

やNGO、地方自治体などと一体となって取り組む全学共通の社会連携・地域連携プログラム。学部の垣根を取り払うことで、学生同士も刺激し合い、知識や教養を深めることができます。

こうした大学生活の成果としては、就職が一つの指標として考えられますが、就職活動支援だけが立教大学におけるキャリアサポートではないと西原総長は語ります。

「就職活動支援を行うキャリアセンターでは、学生が希望する就職先に向けた個別サポートは当然行います。ただし、真理を探究する姿勢やリーダーシップ、外国語運用能力といった『型』や『ツール』を結集させた総合力の向上こそが、本学が目指すキャリア教育の成果です。そのために、基礎教養教育と専門教育を分離させない『学士課程統合』を重視し、さらには、正課教育と正課外教育の統合も重要だと考えています。正課外とは、部活動やサークル活動、アルバイトなども含みます。学生生活での多彩な経験が、職業選択を含めた大局的なキャリアデザインにつながっていくのです」

新学部の設立と理想的な授業形態の探求

数年に及んだコロナ禍では、オンライン授業だからこそ学習効果が高まったケースや、池袋キャンパスと新座キャンパス間の移動に伴う時間のロスの解消など、今後の授業形態



アクティブに学ぶ授業スタイルでリーダーシップを身につける



にじはられた
西原 廉太 総長
1987年京都大学工学部金属工学科卒業。95年立教大学大学院文学研究科組織神学専攻。2013年関西学院大学大学院神学研究科 (博士)。専門は神学、アングリカニズム。立教大学教授、2021年より現職。キリスト教学校教育同盟理事長。日本私立大学連盟常務理事。

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 入学センター TEL 03-3985-2660 <https://www.rikkyo.ac.jp/>

立教大学

1874年に開設された私塾「立教学校」を前身とする立教大学は、2024年に創立150周年を迎えます。英国型リベラルアーツによる人間教育を一貫して実践する一方2016年度には学士課程統合カリキュラム「RIKKYO Learnig Style」が始動。立教大学の伝統である「自由な学び」をより有意義に進めていくために、グローバル化や情報化が加速する現代社会で求められる「ツール」や「型」を身につける、体系的かつ実践的な学びを展開しています。

守るべきは守り、変えるべきは変える革新的な姿勢を貫いてきた立教大学。これまで受け継いできた価値や魅力を再解釈し、未来に向けた新たな価値の創造を推進しています。

立教大学の創始者である、アメリカ聖公会の宣教師ウィリアムズ主教が初めて長崎に降り立ったのは、江戸幕府末期の1859年です。キリスト教禁止令の状況下であったため、しばらくは現地で軟禁生活を余儀なくされますが、キリスト教精神に基づく人間教育を日本で普及させようという使命感は決して揺らぐことなく、1874年に立教大学の前身となる私塾「立教学校」を築地に開設しました。

ウィリアムズ主教が日本の若者に伝えようとしたのは、アメリカ聖公会の源流にあるイギリス国教会を背景に12世紀頃から実践してきた英国型のリベラルアーツです。立教大学と同様にイギリス国教会の流れを汲む、オックスフォード大学やケンブリッジ大学でも脈々と受け継がれてきた伝統的な教育スタイルであり、立教大学においても、創立以来学びの中心に位置づけられています。

「英国型のリベラルアーツには、

単に「教養」の一言では語り尽くせない深みがあります。学生はいわば真理を探究する旅人。探究のためには海を渡って研鑽を積むことも必要ですが、その際には語学教育や留学プログラムの充実が、この真理探究のための手段であり、語学力はあくまでも、人類が築き上げてきた知の体系を現代社会に適応させるためのツールです。教育理念であるラテン語の『PRO DEO ET PATRIA』は、直訳すると『神と国のために』。私たちは『普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために』と解釈しています。これこそがリベラルアーツを重んじる本学の精神なのです」と西原廉太総長は語ります。

入学後半年間の導入期で学びの「型」を修得

立教大学に根づく英国型リベラルアーツには、「定義づけのない」という特徴があります。定義は、真理の決めつけにもなりかねないからです。これは、単一の正解のない問いに挑む探究型学習や課題解決型学習にも通ずる意識といえます。

とはいえ、学びの成果を可視化する必要があるのも確か。そこで、2016年度にスタートしたのが「RIKKYO Learning Style」です。大卒期の3段階に分類し、とりわけ入学後約半年間の導入期を重視。「立

教ファーストタームプログラム」として体系化し、「学びの精神」というカテゴリを設けて学びの意味・意義について理解を深める一方、プレゼンテーションスキルやライティングスキル、データ活用といった「学びの技法」の修得にも注力します。

さらには「グローバル教養副専攻」(1)として、所属学部で学ぶ分野以外の幅広い知見に触れる3コースも設置。全学共通の「Arts & Science Course」「Language & Culture Course」「Discipline Course」があり、大学が定める海外体験への参加が修了要件となっています。

「導入期ではその後の形成期・完成期で不可欠な資質を養います。いわば歌舞伎の『型』のようなものです。『型』ができて初めて、自由に『型破り』な学びに挑戦でき、新たな価値を創造していけるのです」

多様な経験値を結集させる独自のキャリアデザイン

RIKKYO Learning Styleとは、形成期、完成期でのプログラムも多彩です。「グローバル・リーダーシップ・プログラム」(立教GLP) (2)

“PRO DEO ET PATRIA”——「型」を修得する 社会に資する「ツール」と「型」を展開 リベラルアーツ教育を展開

単に「教養」の一言では語り尽くせない深みがあります。学生はいわば真理を探究する旅人。探究のためには海を渡って研鑽を積むことも必要ですが、その際には語学教育や留学プログラムの充実が、この真理探究のための手段であり、語学力はあくまでも、人類が築き上げてきた知の体系を現代社会に適応させるためのツールです。教育理念であるラテン語の『PRO DEO ET PATRIA』は、直訳すると『神と国のために』。私たちは『普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために』と解釈しています。これこそがリベラルアーツを重んじる本学の精神なのです」と西原廉太総長は語ります。

